

資源循環・廃棄物研究分野(総合)

委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

- 政策対応型廃棄物管理研究、災害・放射能汚染廃棄物対策研究にも的確に対応しつつ、しっかりとしたプログラム研究成果や基盤研究成果が挙げられている。[年度]
- 誌上発表や口頭発表が大きく増加しており、災害環境研究と合わせて十分な対応をしている。[年度]
- 全体的に着実に進行したと評価するが、この分野の政策の動向と合致した研究の進捗であるかが判断できなかった。[年度]

今後への期待など

- 資源循環を科学的な面と政策的な面の両面から支える人材育成に力を入れてほしい。[年度]
- 連携推進室の運営体制をどのように維持・発展していくのかについて、研究所全体の中で位置づけてほしい。[年度]
- 循環型廃棄物研究体制を早急に準備し、廃棄物行政の超長期ビジョンを創造するような政策対応に期待する。[年度・見込み]
- 個々のプロジェクトの結びつきなども、検討してほしい。[見込み]

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 当該分野の研究については、災害環境研究と両立しつつ、着実に成果があがり、対外的な成果発信に努めてきたところであり、それらの点評価頂いたものと理解しています。[年度]
- ② 個別の研究課題については、短期から中長期的な課題が混在していますが、政策ニーズを踏まえたものであり、ニーズとの対応を分かりやすく説明することを今後意識していきたいと思います。[年度]
- ③ 人材育成については、若い時代から中堅に至るプロセスの中で、科学的な基盤づくりと政策的な反映戦略を構想できるセンスを磨けるように心掛けたいと思います。[年度]
- ④ 連携推進室については、社会との密接なつながりが深い当分野において有効に機能しています。連携調整能力を有する人材に依存するところもあり、所としての態勢づくりや位置づけの議論が必要と考えます。[年度]
- ⑤ 将来の様々な社会変化を洞察しながら長期ビジョンを議論し、廃棄物管理の制約条件の見通しを踏まえて、循環基本計画における出口指標の在り方などを含め、新たな研究課題を描出していきたいと思います。[年度・見込み]
- ⑥ プロジェクト間の結びつきについては、自然科学と人文社会科学分野の融合による新たな価値づくりを意識し、そのための具体的題材としてプロジェクト間融合も進めていきたいと思います。[見込み]